

# 転換畑用大豆の

## 新品種について(1)

農林水産省・農林水産  
技 術 会 社

平 岩 進

### 1. はじめに

水田利用再編対策が昭和53年度から実施され、水稲から自給率の低い麦、大豆、飼料作物等への転作が計られた。その結果、特定作物に指定された大豆の栽培面積は昭和52年度まではやや減少傾向であったが水田利用再編対策が始まった第1年目(昭和53年度)には、前年度の1.6倍、田作大豆は4.2倍となった。このように、転作作物として重要な地位を占めている大豆について、最近育成された品種について述べてみたい。

表一 水田利用再編対策の実施状況

	53年度		54年度		55年度	
	実施面積 千ha	構成比 %	実施面積 千ha	構成比 %	実施面積 千ha	構成比 %
特定作物	249.6	64.6	268.6	64.7	352.1	68.1
うち 麦	40.6	10.5	53.6	12.9	83.3	16.1
大豆	69.3	17.9	70.2	16.9	88.3	17.1
飼料作物	116.8	30.2	123.4	29.7	156.2	30.2
永年生作物	9.9	2.6	9.6	2.3	11.5	2.2
一般作物等	126.7	32.8	137.3	33.0	153.4	29.7
うち 野菜	79.9	20.7	86.8	20.9	98.4	19.0
転作計	386.2	100.0	415.5	100.0	517.2	100.0
農協等への水田預託	27.5	—	33.7	—	47.8	—
土地改良通年施行	23.8	—	22.2	—	20.1	—
合計	437.5	—	471.4	—	585.1	—

農林水産省「水田利用再編対策実績調査」

「水田利用再編対策の実施状況」(55年9月現在)

表二 キタコマチの育成地における試験成績

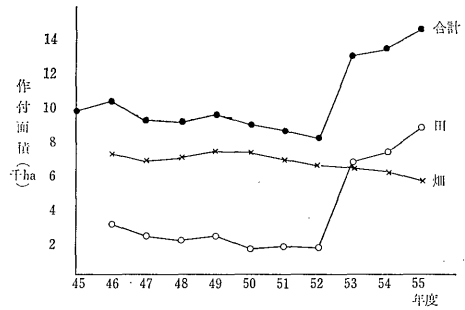
### (1) 特性調査

品種名	胚軸色	葉形	毛茸色	花色	熟莢色	粒形	粒色	臍色	子実の大きさ	伸育型
キタコマチ	紫	円	白	紫	淡褐	やや扁球	黄白	黄	中の大	有限
トヨスズ	"	"	"	"	"	やや扁球	"	"	大の小	"
ヒメユタカ	"	"	"	"	"	扁球	"	"	大の中	"
イスズ	"	長	褐	"	褐	球	黄暗	褐	中の小	"

### (2) 生育および収量調査(昭和47~52年の平均値)

品種名	開花期 月日	成熟期 月日	倒伏 程度	主茎 長cm	主茎 節数	分枝 数	稔実 莢数	1莢内 粒数	a 当り収量kg			100粒 重g	品質
									全重	子実重	比%		
キタコマチ	7.22	9.28	0.4	48.2	11.1	4.7	51.6	2.01	47.9	25.5	95	29.9	2上
トヨスズ	7.23	10.8	0.2	46.6	10.6	4.7	50.9	2.01	50.8	26.8	100	31.9	1下
ヒメユタカ	7.26	10.5	0.5	58.3	11.8	5.7	51.8	1.85	54.4	28.2	105	36.5	1下
イスズ	7.24	9.27	0.6	52.5	12.4	6.3	56.4	2.34	43.9	23.8	89	22.8	2中

図一 大豆の田畑別作付面積の推移



(農林水産統計速報及び作物統計より作成)

### 2. 水田転換畑用大豆として必要な特性

転換畑は一般に土壤水分の変動が大きく、湿害あるいは旱害を受けやすい。したがって、耐湿性の高いことと同時に、耐旱性の高いことも要求される。また転換畑においては過湿のため、立枯性病害や紫斑病の発生が多いので、これら病害に対する抵抗性も重要な特性である。

一方、転換当初は土壤が肥沃であるため、大豆が過繁茂になり、しかも軟弱に生育するため倒伏しやすいので、蔓化、倒伏しにくい特性が要求される。また、前作との関係で、例えば麦作跡に作付する場合などでは、どうしても遅まきになるため、晩播適応性が必要である。晩播にすると、一般に生育量が小さくなるので、多収を得るために密植にする必要がある。そのため、密植適応性も重要な特性の1つと考えられる。

### 3. 最近育成された転換畑に適する大豆品種

#### (1) キタコマチ(十育129号×十育118号)

昭和53年北海道立十勝農業試験場育成)

主茎長は「ヒメユタカ」より短かく、「トヨスズ」並か、やや長い。子実はやや扁球形で、種皮色は「トヨスズ」、「ヒメユタカ」同様黄白である。へん色は黄白を呈し、いわゆる白目で、子実の大きさは100粒が30g内外で、「トヨスズ」よりやや小さく、中粒種に属する。

開花は「トヨスズ」と同程度で、「ヒメユタカ」より2~3日早く、成熟期は

「トヨスズ」より10~14日程度早い早生種である。耐倒伏性は「ヒメユタカ」よりも強く、「トヨスズ」並である。ダイズシストセンチュウに対しては抵抗性はなく、裂莢性も「トヨスズ」、「ヒメユタカ」同様裂莢易である。耐冷性は「トヨスズ」並であるが熟期が早いので安定性は高い。収量性は「トヨスズ」より7%前後劣るが、熟期が早いので、安定していると同時に、水稻の収穫期との作業上の競合もなく水田転換畑への作付が容易である。

適地としては北海道上川管内であるが、ダイズシストセンチュウに対しては抵抗性がないので、被害の恐れのある圃場では栽培をさけること。

(2) タンレイ (農林2号×東山6号) 昭和53年長野県農総試・中信地方試験場育成)

主茎長は「ハツカリ」より短かい中茎種、茎は太く、強稈で倒伏が極めて少ない。子実は橢円形で、種皮色は黄色、ヘソ色は黄色のいわゆる白目である。粒の大きさは「中の大」で粒揃いが良い。開花は7月下旬で「ハツカリ」並、成熟期は10月上旬で「ハツカリ」よりややおそい早中生種である。ウィルス病には罹病性であるが、褐斑の発生が少なく、立枯性病害はわずかに発生するが、「シンメジロ」

表一3 タンレイの育成地における試験成績

(1) 特性調査

品種名	胚軸色	花 色	毛莖の多少	毛茸色	莢 色	粒 大	粒 形	種皮色	臍 色	粒の光沢	粒揃い
タンレイ	紫	紫	多	白	褐	中の大	橢円	黄	黄	中	良
シンメジロ	紫	紫	多	白	褐	中の中	橢円	黄	黄	中	中
ハツカリ	紫	紫	多	白	褐	中の中	橢円	黄	黄	中	中

(2) 生育調査

品種名	開花期 月.日	成熟期 月.日	結実 日数	生育中の障害 倒蔓枝立折枯伏化れ	主茎長 cm	主茎節数	分枝数
シンメジロ	8.1	10.1	61	少少微少	67	16.5	6.4
ハツカリ	7.31	10.3	64	少少微微	79	17.7	5.8

(3) 収量および品質調査

品種名	a当り 莖重	a当り 子実重	標準 比率	粒 莖	百粒 重	障害粒 度	品 質
	kg	kg	%	比	g	紫褐虫亀斑斑害裂	
タンレイ	14.39	26.48	119	1.84	27.2	微微微無	上中
シンメジロ	13.40	22.20	100	1.66	24.4	微微微微	中上
ハツカリ	15.33	26.31	119	1.72	23.6	無微微微	中中

表一4 ナカセンナリの育成地における試験成績

(1) 特性調査

品種名	胚軸色	花 色	毛莖色	毛茸多少	莢 色	粒 大	粒 形	種皮色	臍 色	粒の光沢	粒揃い
ナカセンナリ	紫	紫	白	多	褐	中の中	球	黄白	黄	中	良
シロメユタカ	紫	紫	白	多	褐	中の中	橢円	黄	黄	強	中
ネマシラズ	紫	紫	白	多	褐	中の中	橢円	黄	黄	中	良

(2) 生育調査

品種名	開花期 月日	成熟期 月日	結実 日数	生育中の障害 倒蔓枝立折イ枯伏化れ	主茎長 cm	主茎節数	分枝数 本
シロメユタカ	8.2	10.21	80	少微少無	76	17.3	5.7
ネマシラズ	8.2	10.13	72	多中少無	77	17.3	8.0

(3) 収量および品質調査 (昭和46~52年いり均値)

品種名	a当り 莖重	a当り 子実重	標準 比率	対 ふん なり 比率	粒莖比	百粒重	障害粒 程度	品 質
	kg	kg	%	%	g	紫褐虫亀斑斑害裂		
ナカセンナリ	16.98	26.47	113	—	1.55	25.4	無無微微	上下
シロメユタカ	16.90	23.37	100	—	1.38	26.6	無無微無	上下
ネマシラズ	16.37	26.25	112	—	1.60	24.3	微微微微	上下

より少ない。

収量性はシンメジロよりかなり高く、密植適応性が極めて高い。晩播栽培で生育日数の短縮率が高く早中生種としては晩播適応性が高い。

宮城県およびこれと土壌気象的に類似する地帯に適するが、線虫抵抗性はないので、発生地はさけること。倒伏に極めて強いので多肥、密播栽培にする必要がある。

(3) ナカセンナリ (ほうじやく×ネマシラズ)

(昭和53年長野県農総試中信地方試験場育成)

主茎長は、「シロメユタカ」よりやや大きい長茎種で、耐倒伏性は強く、着莢性がきわめてよい。子実の大きさは中の中で、「シロメユタカ」、「ネマシラズ」並、ヘソ包は黄色で粒揃いはよい。熟期は「シロメユタカ」と同じで、晩生の中である。ダイズシストセンチュウ抵抗性はネマシラズ程度の強で、紫斑粒、褐斑粒は「シロメユタカ」、「ネマシラズ」より少なく、亀裂粒の発生も「ネマシラズ」程度で少なく、良質である。立枯性病害の発生も少ない。

収量性は「ネマシラズ」並で、「シロメユタカ」より高く、各種障害に対する抵抗性も強く、安定多収型の品種である。また晩播栽培では、どの対照品種よりも多収で、晩播適応性は高い。栽培適地は長野県の中山間地、低暖地であるが、晩播も可能である。そのほか、北陸地域の平坦ないし、中山間地にも適応する。